



い 言えなかつたいただきます

2025/9/18

No.49

岩瀬和信

5年生、国語。朽木 祥作『たずねびと』

本文から読み取ったことを子どもたちが自分で黒板に
書きました。ここから受けとりあっていきます。

『八時十五分で止まったうで時計』というのとは？

「爆発のとき」「原爆が落ちた時間」「そこで止まった」

「わかるね。『焼けただれた三輪車』っていうのはわかる？」

「だいたい想像はつく」「めちゃめちゃポーポーに燃やした三輪車」「そうそう」

「じゃ、『ご飯が炭化した弁当箱』はどう？」

「腐ったってことか？」「なんで腐ったの」「なんか焼けちゃったんじゃない？」「『炭化』ってなに？」「え、炭になるってこと？」

「言葉をちゃんと読んで。弁当箱が炭化したの？」

「ご飯だ」「お米です」

「そのお米はどこにあるの？」

「弁当箱の中」「あ、お米を炊く炊飯器がなかったから、こうやって火にかけたら焦げた？」

「では、見て下さい。これは資料館にある物の写真です」

先生は取り出した本を開いて見せました。

「え、これご飯？」「え、これはやばい」「これ？米？」

「資料館に行くと、この実物を見ることができます」

「説明読んで」先生はこの弁当箱の経緯を説明しました。

「この弁当箱の声として、この本の著者のビナードさんが

こう書いています。『ぼくはご飯をぎゅっと守ろうとした。なのに中まで熱がねじ込んで、放射能はじわっと染みてきたんだ。もうご飯は食べてはいけない。それでもぼくはさがしているんだ、れい子ちゃんと言えなかつたいただきますを』という形で語られています」

「う、泣ける」「やだなあ、なんか」



分かってほしい。けれどそう簡単に分かれても困る。(村瀬孝生)